

新潟市

住み慣れた地域で暮らすために

新潟市では・・・

精神障がい者が、住み慣れた地域で、自分の望む生活を営めるよう、保健、医療、福祉等の関係機関の連携のもとで、入院患者の地域移行、並びに、精神障がい者が安定した地域生活を継続するための支援を推進しています。

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

(1) 精神障がい者の地域生活を考える関係機関連絡会

① 地域生活を支援する土壌を作り、関係職員の人材育成と関係機関のネットワークの再構築を行うことを目的とする。

② 官民協働、多職種で構成した運営委員により、連絡会の企画・運営を行う。

《運営委員構成》今年度は 名で構成 ⇒ 精神科病院の看護師，精神保健福祉士，相談支援事業所の相談支援専門員，基幹相談支援センター相談員，保健師

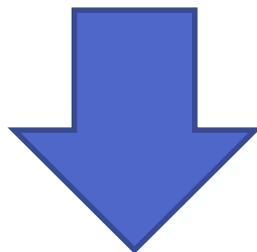
③ 対象者は、市内精神科病院（総合病院含）職員，相談支援事業所職員，行政職員，その他。

《実施内容》

| | 開催日 | 内容 | 参加人数 |
|-----|-------------------------|--|--------------|
| 第1回 | 平成29年 4月28日 | 「精神科病院情報交換会」 1 精神科救急医療システム事業について 2 精神科救急情報センター及び精神医療相談窓口の現状と困難ケースについて 3 精神保健福祉士業務について意見交換 | 市内10病院25名 |
| 第2回 | 平成29年 7月27日 7月28日 | 「社会資源見学ツアー」 業務に生かせるよう、市内にある精神保健医療福祉に関する社会資源（精神科病院，居住・就労施設等）を見学した。 | 全4コース 74名 |
| 第3回 | 平成29年 9月22日 | 「地域移行・地域定着支援研修会」 精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステムの構築について講義を行い、後半は当事者による体験談発表と措置退院後の継続支援についてグループワークを行った。 | 42名 |

3 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の経緯

- ・平成19年度：新潟県退院促進支援事業開始
- ・平成23年度：新潟市地域移行・地域定着支援事業を開始
→コーディネーターが直接、退院支援から地域定着までの個別支援を行う。
- ・平成24年度：自立支援法の改正により、個別の退院支援が、自立支援法の「地域相談支援」に取り込まれる。→退院または地域定着支援が自立支援法のサービスとなる。
- ・平成26年度：コーディネーターの配置を廃止。 →**現在の事業内容へシフトする**



【現在の事業内容】

- ①精神障がい者の地域生活を考える関係機関連絡会
⇒官民協働，多職種による運営委員構成
- ②ピアサポーターによる普及啓発活動
- ③精神科病院情報交換会の実施

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組における強みと課題

【特徴(強み)】

精神障がい者の地域生活を考える関係機関連絡会を実施しており、その運営委員は官民協働・他職種構成によるものであることから、様々な視点からの地域移行推進に向けた企画を立てている。

| 課題 | 課題解決に向けた取組方針 | 課題・方針に対する視点別の認識(取組) | |
|--|--|---------------------|-------------------|
| | | 行政側 | 普及啓発活動の実施 等 |
| 精神科病院長期入院者の地域移行について、精神科病院職員や地域の支援者等に対する普及啓発が十分でない。 | 病院関係者に対しては、病院の職員研修において、当該病院を退院し地域生活を送る当事者が病院職員に体験談を語る機会を設け、理解を促進する。(H29年度に引き続き実施) 地域の支援者に対しても各区役所と共催して、体験談発表を行う場の提供をしていく。 | 医療側 | 発表の場の提供 等 |
| | | 事業者側 | 体験談発表の依頼、事業への参加 等 |
| | | 関係機関・住民等 | 事業への参加 等 |

| 課題解決の達成度を測る指標 | 指標の設定理由 | 現状値 | 目標値(H30) |
|------------------------|---|-----|----------|
| ①ピアサポーターによる普及啓発活動の実施回数 | 精神障がい者の地域移行に関係する関係者に対して当事者の体験談を発表する場となり、効果が期待されるため。 | 5回 | 6回 |
| ②当事者による体験談発表 | 精神科病院で当事者が体験談発表を行うことで地域移行への意識づけが期待できるため。 | 5回 | 6回 |

※指標設定が困難な場合は、代替指標や定性的な文言でも構いません。

5 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた平成30年度の取組スケジュール

平成30年度の到達目標

精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築について、新潟市ではまだ具体的な取組みが不十分であり、今後は構築に向けて体制を整えていきたい。その一環として、ピアサポーターを社会資源として活用できるよう、力を入れていきたいと考えている。また、従前の事業も引き続き取り組んでいきたい。

| 時期 (月) | 実施する項目 | 実施する内容 |
|-----------|----------------------|---|
| 5月下旬 | 精神科病院情報交換会 | 市内10病院と院内活動及び地域移行について情報交換を行う。 |
| 7月下旬 | 社会資源見学ツアー | 支援者を対象に、全2コースで市内の社会資源を見学した後、参加者で意見交換を行う。 |
| 1月下旬 | 地域移行 ・地域定着支援研修会 | 支援者を対象に、精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムについての研修及び措置入院者の退院後の継続支援について他職種のグループで検討する人材育成研修を実施する。 |
| 9～12月頃 | 当事者による体験談発表 | 精神科病院の職員研修において、当該病院を退院し地域生活を送る当事者が病院職員に体験談を語る。 |
| 9～12月頃 | ピアサポーターによる 普及啓発活動 | 体験談の発表、交流会などを企画する予定。 |

6 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた指標の推移と目標値

| NO | 指標 | 平成 27年度 | 平成 28年度 | 平成 29年度 | 平成 32年度 | 平成 36年度 |
|----|-----------------------------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| ① | 1年以上の精神科病院在院患者数(人) (各年6月30日現在) | 1712 | 1662 | — | ○ | — |
| ② | 各年度 地域移行支援利用者数(実人数)(人) | 13 | 11 | — | — | X |
| ③ | ②のうち、退院した者の数(実人数)(人) | 2 | 4 | — | — | |
| ④ | ピアサポーターの養成者数(実人数)(人) | 0 | 0 | — | — | |
| ⑤ | ④のうち、活動している者の数(実人数)(人) | 0 | 0 | — | — | |
| ⑥ | 地域移行を促す基盤整備 | X | | | ○ | |
| ⑦ | 治療抵抗性統合失調症治療薬の普及 | | | | ○ | ○ |
| ⑧ | 認知症施策の推進 | | | | ○ | ○ |

目標値

【記入上の留意点】

- ③について ※利用年度の翌年度以降に退院した者については、利用年度に計上して下さい。
※退院後に再入院となった者については、退院した者(1人)として計上して下さい。
- ⑤について ※養成年度以降に、実際の活動を開始した者については、養成年度へ計上して下さい。
- ⑥⑦⑧について ※障害福祉計画上に明記した地域移行者数(地域移行に伴う基盤整備量(利用者数))を踏まえ、記載して下さい。
※⑥・⑦・⑧のそれぞれの値を分けて記載できない場合は、⑥+⑦+⑧の合計値を記載して下さい。